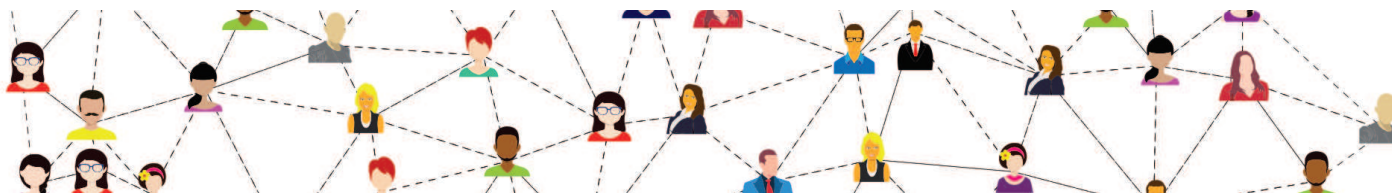


2025年度



教区同朋会議

2026年5月15日（金）

公開・参加費無料

名古屋教区・名古屋別院

宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年

慶讃事業基本計画について



14:30 ● 集合・受付 【会場：議事堂】

時間に余裕を持ってお越しください。

15:00 ● 開会・挨拶・日程説明

開始時間までに着席をお願いします。

15:05 ● 慶讃事業「準備委員会」進捗報告

15:20 ● 講義①：中村亮氏（基本計画策定委員）

名古屋別院総務部 部長

■ 慶讃法要の展望について

16:00 ● 講義②：市野智行氏（基本計画策定委員）

同朋大学 准教授

■ 慶讃法要の理念について

16:40 ● 休憩・移動



16:50 ● 座談会

2F各部屋



17:50 ● 移動

18:00 ● 閉会・挨拶・恩徳讃 【会場：議事堂】

5月7日（木）までにお申込みください。➡

人と生まれたことの意味 — われ一人の歩み —

慶讃テーマで言われる生まれた意味をたずねるとは、「人とは何か」を確かめ私自身が「人になっていく」歩みといえる。つまり一生をかけて問い続けていける課題に出遇ったときに人は初めて、本当の「人」になっていくのではないだろうか。

その歩みを宗祖親鸞聖人に学ぶ機縁として、このたびの慶讃法要を迎えたい。（基本方針から抜粋）

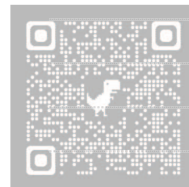
立教開宗の精神 — 問われるわれら —

立教開宗とは文字通り、教えを立て一宗（拠り所）を開くことを意味する。宗祖親鸞聖人においては法然上人との出遇いを通し本願念仏の教えに帰し、『教行信証』を著された。その『教行信証』において、宗祖親鸞聖人自らが出遇い得た仏恩の深きことを信知して制作されたのが『正信偈』である。それは「浄土真宗とは南無阿弥陀仏を宗旨とする」ことを内容とし、まさに立教開宗の精神そのものが顕わされている。その『正信偈』を唱和することを通して、私たち真宗門徒は、念仏に親しみ念仏を相続してきた。

しかし、その相続の場に多大な変容をもたらしたのが、人口減少、過疎化、少子高齢化、新型コロナウイルス感染症、そして2024年1月1日に北陸地域を襲った「令和6年能登半島地震」である。

浄土真宗を地盤とする地域で多くの人々が亡くなられ、寺院も甚大な被害を受けた。被災された地域の苦しみと痛みを前に、私たちが教えられることは何であろうか。ともに念仏し『正信偈』を唱和する場所や生活があることは決して当たり前のことではない。

震災がもたらした現実、問いかけを忘れず、改めて真宗門徒としてご本尊を中心とすることの願いを確かめ、次世代へとつないでいきたい。



主催：名古屋教区教化委員会